

**令和4(2022)年度  
大阪大学大学院人文学研究科  
博士前期課程  
日本学専攻  
応用日本学コース  
実践トラック  
学生募集要項**

## はじめに

令和4（2022）年4月1日、大阪大学は、大学院文学研究科および言語文化研究科を統合・再編し、5つの専攻（人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学）から成り立つ「人文学研究科」を新設します。

人文学研究科の令和4（2022）年4月入学者を対象とする学生募集は、課程・専攻（日本学専攻はコース）ごとに行うため、学生募集要項、入試日程及び選抜方法等がそれぞれ異なりますので注意してください。

この学生募集要項は、人文学研究科博士前期課程日本学専攻応用日本学コース実践トラックに出願するための学生募集要項です。

なお、人文学研究科博士前期課程日本学専攻応用日本学コースの入学試験は、【現】言語文化研究科日本語・日本文化専攻が実施します。出願書類の受理、受験票等の発送、合格者発表などの入学試験の運営並びに入試情報の提供等は、【現】言語文化研究科日本語・日本文化専攻が令和4（2022）年3月31日まで担当しますのでご留意願います。

令和4（2022）年4月入学者を募集する人文学研究科の各専攻（コース）と入学試験を実施する研究科（専攻）は、次の表を参照してください。

令和4（2022）年4月入学		
【新設】募集する専攻（コース）		入学試験を実施する【現】研究科（専攻）
人 文 学 研 究 科	人文学専攻	文学研究科
	日本学専攻（基盤日本学コース）	
	芸術学専攻	
	言語文化学専攻	言語文化研究科 言語文化専攻
	外国学専攻	言語文化研究科 言語社会専攻
	○ 日本学専攻（応用日本学コース）	言語文化研究科 日本語・日本文化専攻

### その他留意事項

- 人文学研究科の新設に伴い、文学研究科及び言語文化研究科各専攻の学生募集を停止します。
- 【現】言語文化研究科日本語・日本文化専攻実践コースの出願を検討されていた方は、この学生募集要項により、【新設】人文学研究科日本学専攻応用日本学コース実践トラックに出願してください。
- 人文学研究科博士前期課程日本学専攻応用日本学コース実践トラックの入学試験については、令和4（2022）年度学生募集（令和3（2021）年度に実施する入学試験）に限り、冬季試験のみ実施しますが、令和5（2023）年度学生募集（令和4（2022）年度に実施する入学試験）以降は、夏季試験（8月）と冬季試験を実施する予定としています。
- 外国人留学生を対象とする日本学専攻応用日本学コース専修トラック（10月入学のみ）については、入学者選抜方法が異なりますので、別途お問い合わせください。（専修トラックには、4月入学の募集はありません。）

# 大阪大学大学院人文学研究科の概要

## (大学院文学研究科・言語文化研究科の統合・再編)

2022年4月1日、文学研究科と言語文化研究科が統合・再編し、新しく5つの専攻を包括した「人文学研究科」として生まれ変わります。思想・歴史・文学・言語文化・社会・芸術など多領域にわたり超横断的な学びの場を提供し、国際的な相互理解を推進する研究者・高度専門職業人を育成します。



### ■ 人文学研究科新設の背景・ミッション

新研究科では、安定した教育プログラムを提供する5専攻群（人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学）とともに、社会学連携活動を実施したり研究グループを立ち上げるなど、5専攻を横断して研究科全体の研究・教育体制を俯瞰し、共通科目や学位審査等を統括する組織として「人文学林」を新たに設置します。

「人文学林」では、3つの学問分野と4つの地理的エリアを組み合わせ、12に区分された「学術マトリックス」を設けており、教員はその12の区分に配置されています。学生は所属専攻の垣根を超えてそれぞれの興味関心に従ってその区分を選択することで、専攻を超えた交流や研究の振興、さらには新たな学問分野の創出が可能となります。

### ■ 5専攻紹介

**人文学専攻** 「人間とは何か」を探求する人文学 Humanities の継承と発展

次の4コースにより、「人間性」を探求するとともに、現代の諸課題にも取り組みます。

- ①哲学コース（哲学哲学史、科学技術社会論、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学）、
- ②グローバルヒストリー・地理学コース（東洋史学、西洋史学、人文地理学）、
- ③文学コース（テキスト表現論 [英米文学、ドイツ文学、フランス文学、中国文学]、テキスト環境論）、
- ④比較・対照言語学コース

**言語文化学専攻** 今日的な課題に幅広い観点から取り組む

3分野6講座（I: 超領域文化論講座、表象文化論講座、II: コミュニケーション論講座、第二言語教育学講座、III: 理論言語学・デジタルヒューマニティーズ講座、言語認知科学講座）が連携しつつ、伝統的なディシプリンと新たな研究領域や研究方法論を融合し、言語と文化に関する高度な教養や情報活用能力を修得することで、今日の多文化・多言語社会における国家・民族・文化間の諸問題等に取り組みます。

## 外国学専攻 24の言語とその地域について多角的・徹底的に学べる

24の言語とそれを基底とする文化一般について、高度な言語運用能力をもとに理論と実践の両面にわたり総合的に教授・研究する「外国学研究」を主眼とし、人文社会科学諸分野や学際的アプローチから世界の言語と文化を研究します。①地域文化研究コース（アジア・アフリカ言語文化コース、ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース）、②高度専門職業人コース（英語教員リカレント・コース、中国語教員リカレント・コース）

## 日本学専攻 基盤的研究と応用的展開の双方をカバーする日本最大規模の日本学専攻

基盤日本学コースと応用日本学コースの2コースを擁する日本学専攻は、日本の言語・文化・社会・歴史・文学などを厳密に学問的な方法に基づいて深く探究するとともに、その専門的知見に基づいて日本の抱える今日的課題に果敢に取り組むことのできる人材を育成します。さらに、比較や交流の観点から日本を世界的視野のうちに捉え、日本語・日本文化についての幅広い知見を基礎としてグローバルに活躍できる実践力・応用力を養います。

## 芸術学専攻 基礎と社会的実践の両方に立脚、国立総合大学最大の芸術学の専攻

4コース（アート・メディア論コース、美学・文芸学コース、音楽学・演劇学コース、日本東洋美術史・西洋美術史コース）から成る芸術学専攻では、他の何ものによっても代替不可能な営みである芸術を、全国的にも類を見ない規模で捉え、専門的・先端的且つ学際的な厚みと多様性を備えた研究・教育活動を行います。これにより、現代社会の諸システムの制約や限界を超え出る可能性・構想力を持った人材を育成します。

## ■各専攻の入学定員と学位プログラム

専攻	課程(入学定員)	プログラム	取得できる学位
人文学専攻	博士前期課程(47人) 博士後期課程(14人)	人文学プログラム	修士(文学) 博士(文学)
言語文化学専攻	博士前期課程(32人) 博士後期課程(15人)	言語文化学プログラム	修士(言語文化学) 博士(言語文化学)
外国学専攻	博士前期課程(25人) 博士後期課程(11人)	外国学プログラム	修士(言語文化学) 博士(言語文化学)
日本学専攻	博士前期課程(40人) 博士後期課程(18人)	基盤日本学プログラム	修士(文学) 博士(文学)
		応用日本学プログラム	修士(日本語・日本文化) 博士(日本語・日本文化)
芸術学専攻	博士前期課程(17人) 博士後期課程(7人)	芸術学プログラム	修士(文学) 博士(文学)

\* 教授会の議を経て総長が適当と認めたときは、「修士/博士(学術)」を授与する場合があります。

## I 日本学専攻応用日本学コース アドミッション・ポリシー

大阪大学および人文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「応用日本学」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、次のとおり、アドミッション・ポリシーを定め、入学者を受け入れます。

### 【求める人材像】

学位プログラム「応用日本学」では、日本語・日本文化領域の教育研究に強い関心を持つとともに、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化の中で相対的に捉え、理解しようとする比較対照的視座をもった思考力に優れた人材を広く世界に求めます。将来、国内外の高等教育機関等で、比較日本学、応用日本語学、日本語教育学の各分野における教育者や研究者を目指す人、海外協力機関や国際機関で日本語・日本文化の発信のために必要な企画・立案・交渉・運営等を行う専門職業人を目指す人、また日系企業等を活動の場として、日本と世界の国々との懸け橋となることを目指す人々の入学を期待しています。

### 【入学者選抜の基本方針】

学位プログラム「応用日本学」の入学試験は、大阪大学で受験する人を対象とした実践トラック（4月入学）と、外国人留学生を対象とし、海外からの受験を可能とする専修トラック（10月入学）とに区分して実施します。いずれのトラックにおいても、比較日本学、応用日本語学、日本語教育学の各分野において研究を遂行するのに必要な専門的知識と方法論的知識、および資料収集・分析の能力を判定するための試験を行います。なお、実践トラックでは、一般選抜、社会人選抜、外国人留学生選抜を実施します。

### 【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

1. 実践トラックの一般選抜では、上記の知識・能力を考査する筆記試験に加え、外国語能力を考査する筆記試験、および研究能力、意欲、適正などを判定する口述試験により選抜します。
2. 実践トラックの社会人選抜と外国人留学生選抜では、上記の知識・能力を考査する筆記試験と、研究能力、意欲、適正などを判定する口述試験により選抜します。
3. 専修トラックでは、提出書類（小論文、研究計画を含む）の審査に加えて、上記の知識・能力を考査し、研究能力、意欲、適正などを判定するために、Eメール等によるリモートインタビューにより選抜します。

※ 詳しくは、ホームページの「教育目標及び3ポリシー」をご覧ください。

## II 募 集 人 員

日本学専攻応用日本学コース	10名
---------------	-----

\* 博士前期課程日本学専攻の募集人員は、基盤日本学コース30名及び応用日本学コース10名の計40名です。

\* 【社会人】及び【外国人留学生】については、この募集要項に基づいて学力検査の一部（言語の試験）を免除した上で入学試験を実施しますので注意してください。

### Ⅲ 専攻・コース及びトラック

専攻・コース	トラック
博士前期課程	日本語・日本文化実践トラック
日本学専攻 応用日本学コース	日本語・日本文化専修トラック（外国人留学生のみ）*

\* 【日本語・日本文化専修トラック】（10月入学のみ）については、入学者選抜方法が異なりますので、別途お問い合わせください。（専修トラックには、4月入学の募集はありません。）

### Ⅳ 出願資格（【一般】、【社会人】及び【外国人留学生】別に、各該当項目事項を参照してください。）

#### 1 【一般】次の(1)から(10)のいずれかに該当する者

- (1) 日本の大学又は専門職大学を卒業した者及び令和4（2022）年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 日本において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4（2022）年3月31日までに22歳に達する者

※ (9)又は(10)に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「V 出願資格事前審査」を参照してください。

## 2 【社会人】(1)の①又は②に該当し、かつ、(2)の①から⑨までのいずれかに該当する者

### (1) 職歴等

- ① 有職者（就職内定者を含む。）である者
- ② 令和4（2022）年3月31日において25歳以上の者

### (2) 学歴等

- ① 日本の大学又は専門職大学を卒業した者
- ② 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- ⑤ 日本において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって⑤の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
- ⑨ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4（2022）年3月31日までに22歳に達する者

※ ⑨に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「V 出願資格事前審査」を参照してください。

## 3 【外国人留学生】在留資格「留学」を有し（入学時に在留資格を「留学」に変更する者を含む。）、次の(1)から(10)のいずれかに該当する者

- (1) 日本の大学又は専門職大学を卒業した者及び令和4（2022）年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 日本において、外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者

- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(5)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和4（2022）年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号参照）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学又は専門職大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4（2022）年3月31日までに22歳に達する者
- ※ (9)又は(10)に掲げる出願資格により出願しようとする者は、あらかじめ出願資格の認定を受ける必要がありますので、「V 出願資格事前審査」を参照してください。

## V 出願資格事前審査

「IV 出願資格」の1【一般】の(9)又は(10)、2【社会人】の(2)の⑨、3【外国人留学生】の(9)又は(10)に掲げる出願資格により出願しようとする者については、出願前に個別の出願資格事前審査を行いますので、下記のとおり事前審査に必要な書類を提出してください。

### [事前審査提出書類]

- (1) 入学試験出願資格認定申請書（所定用紙）
  - (2) 研究業績調書（所定用紙）
  - (3) 論文（(2)の研究業績調書のうちから主要論文1点を3部提出してください。なお、日本語又は英語以外の論文の場合は、日本語訳文（志願者作成可）を3部添付してください。）
  - (4) 最終学校の卒業証明書\*又は修了証明書\*
  - (5) 最終学校の成績証明書\*
- \* 写しでも可。（ただし、出願資格認定後の出願に際しては、原本を提出してください。）  
日本語又は英語以外の証明書の場合は、日本語訳文（志願者作成可）を添付してください。

**出願資格事前審査書類提出期限：令和3（2021）年10月15日（金）**

※封筒の表に「出願資格事前審査」と朱書きしてください。

出願資格事前審査は提出された書類により行います。審査の結果は、本人あてに郵送で通知します。（電話による問い合わせには応じません。）

出願資格事前審査の結果、出願を認められた者は、次の「VI 出願手続等」により出願することができます。



## VI 出願手続等

### 1 出願書類等

出願書類等	必要書類			摘 要
	一 般	社 会 人	外国 人留 学生	
入学願書 (所定の用紙)	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真は、上半身正面向無帽で、出願前3か月以内に撮影したものを貼付してください。 (写真の大きさ縦4cm×横3.5cm 1枚)</li> </ul>
成績証明書 及び 卒業(見込)証明書	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>出身大学の学長又は学部長が作成し、厳封したもの(写し不可)</li> <li>偽造防止用紙による証明書の場合は、特に厳封を要しません。</li> <li>日本語又は英語以外の証明書の場合は、日本語訳文(志願者作成可)を添付してください。</li> <li><u>海外の大学等の卒業(見込)者で、卒業(見込)証明書内に学位名が記載されていない場合は、併せて学位授与(見込)証明書の提出が必要です。</u></li> <li>婚姻等により証明書に記載された氏名と現在の氏名が相違している場合は、改名したことを証明する公的書類を添付してください。</li> </ul>
修学歴調書 (所定の用紙) ※該当する者のみ	▲	▲	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国での修学歴のある者は、必ず提出してください。</li> </ul>
入学試験論文	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>VIの4の「入学試験論文について」により作成してください。</li> <li>A4判用紙を使用し、所定の表紙を付して提出してください。なお、表紙には論文題目・氏名を記入し、該当する出願区分に○を付してください。</li> <li><u>ページ番号を右下に付してください。</u></li> </ul>
職歴等調書 (所定の用紙)		●		<ul style="list-style-type: none"> <li>過去及び現在においてたずさわっている職務内容、研究経歴又は卒業論文等の概要等について記入してください。</li> </ul>
有職証明書 ※該当する者のみ		▲		<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢25歳(令和4(2022)年3月31日現在)未満の者で、官公庁・会社等に在職している者は在職の事実を証明する書類(写し不可)を、また、就職が内定している者は内定通知等の書類(写しでも可)を提出してください。</li> </ul>

出願書類等	必要書類			摘 要
	一 般	社 会 人	外国 人留 学生	
検 定 料 (30,000 円)	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定料振込依頼書により、銀行窓口で振り込んでください。 (ATM、インターネット等を利用できません。) ※ゆうちょ銀行(郵便局)からは振り込みできません。</li> <li>・検定料納入証明書は、必ず願書の指定された場所にはがれないように貼付して提出してください。</li> <li>(注) 国費外国人留学生として入学する者については、検定料は不要です。ただし、<u>国費外国人留学生であることを証明できる書類を提出してください。</u>(本学大学院言語文化研究科言語社会専攻、日本語・日本文化専攻及び本学外国語学部<sup>に在籍している国費外国人留学生は提出不要です。</sup>)</li> </ul>
受験票・写真票・発送票 (所定の用紙)	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太枠内に必要事項を記入してください。</li> <li>・写真票に入学願書と同じ写真を1枚貼付してください。</li> </ul>
返信用封筒 (受験票送付用)	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長形3号(120mm×235mm)封筒に出願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、84円分の郵便切手を貼付してください。(書留による受験票発送を希望する場合は、404円分の郵便切手を貼付してください。)</li> </ul>

(注) 1 出願書類は返却しません。

2 納入された検定料は返付しません。ただし、出願書類の不備等の理由により出願書類を受理しなかった場合又は誤って納入した場合は、本人の請求に基づいて返付します。

## 2 出願期間

令和3(2021)年11月29日(月)から12月3日(金)

## 3 出願方法(以下のいずれかの方法で出願してください。)

### (1) 【持参による場合】

- ・提出場所：大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟2階 箕面事務室学生支援係
- ・出願書類受付時間：平日9時00分～11時15分、12時15分～17時00分(時間厳守のこと)

### (2) 【郵送による場合】

- ・出願書類を角形2号(240mm×332mm)封筒に入れて、封筒の表に「博士前期課程日本学専攻応用日本学コース入学願書在中」と朱書きし、箕面事務室学生支援係に必ず出願期間内に到着(必着)するように書留により発送してください。
- ・ただし、期限後に到着したもので、令和3(2021)年12月1日(水)以前の日本国内発信局消印のあるものについては受け取りません。

#### 4 入学試験論文について

日本学専攻応用日本学コース実践トラック【一般・社会人・外国人留学生】

別表「入学試験論文一覧表」及び次の（注）の指示により作成してください。

（注）パソコン（日本語ワープロソフト）を使用して作成する場合は、A4判・縦長・横書きとし、1行40字・1ページ30行で作成してください。

別表「入学試験論文一覧表」

日本学専攻応用日本学コース

コース・トラック	論文の内容	字数	摘要
応用日本学コース 実践トラック	「比較日本学」「応用日本語学」「日本語教育学」のいずれかの分野に関する研究論文（10,000字程度）。ただし、 <u>研究論文の末尾には、入学後の研究計画（1,000字程度）を含むこと。</u>	10,000字程度	使用言語は日本語とする。 <u>※英語による要約を添付すること。</u>

## Ⅶ 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査の成績、口述試験、入学試験論文、成績証明書及びその他の提出書類等の審査の結果を総合して行います。

(1) 学力検査等の日程

実施期日 令和4（2022）年2月5日（土）

- ・ 下記の要領により、専門科目及び言語の試験並びに口述試験を行います。
- ・ 【社会人】及び【外国人留学生】については、言語の試験を課さないものとします。

【一般・社会人・外国人留学生】

試験科目 (配点)	試験時間	摘要
専門科目 (200点) 【一般・社会人・外国人留学生】	10:00～12:00	各自の専攻分野に応じた地域及び言語に関する問題を課します。
言語 (100点) 【一般】	13:00～14:00	<u>下記の※を参照のこと。</u>
口述試験 *	【社会人】【外国人留学生】 13:30～	入学試験論文及び研究計画等について、口述試験を行います。
	【一般】 14:30～	

\* 口述試験の結果により、合格判定の対象にならないと判定されれば不合格とします。

※ 入学願書の「試験科目 言語」欄に受験する言語を記入すること。

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語のうちから、「第一言語」\*を除く、志願者選択の1言語の問題を課す。ただし、外国人の志願者は、前記言語に代えて日本語を選択受験することができる。

\*「第一言語」とは、いわゆる「母語」のことで、志願者が最も自己を表現しやすい言語をいう。

(2) 試験場

大阪大学箕面キャンパス

大阪府箕面市船場東3丁目5番10号

(<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/minoh/minoh.html>)

## Ⅷ 合格者の発表

合格者の発表は、下記の日時に大阪大学箕面キャンパス外国学研究講義棟2階掲示板に、受験番号の掲示により行うとともに、合格者には合格通知書を送付します。

なお、合否に関する電話による問い合わせには一切応じません。

また、言語文化研究科日本語・日本文化専攻のホームページでも合格者の受験番号を公開する予定です。

合格者発表
令和4（2022）年2月14日（月）13:00

## Ⅸ 入学手続

合格者は、合格通知に同封する入学手続案内に従い、入学手続を完了してください。

なお、指定された入学手続期間中に入学手続を完了しない者については、入学を辞退したものととして取り扱います。

※入学手続期間は、令和4（2022）年3月1日（火）～3月3日（木）の予定です。

## Ⅹ 入学料及び授業料（下記の金額は予定であり、今後変更することがあります。）

1 入学料 282,000円

2 授業料 535,800円（前期分 267,900円・後期分 267,900円）

（注1）在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

（注2）入学料及び授業料の支払方法等については、入学手続案内にて通知します。

## Ⅺ 個人情報の取扱い

出願書類等に記載されている氏名、生年月日、住所、その他の個人情報は、入学者選抜、合格者発表及び入学手続等の入試業務並びに入学後の修学指導業務等を行うために利用します。

また、合格者については合格発表日以降、入学後に履修可能な教育プログラムについての案内をするために利用することがあります。

なお、取得した個人情報は、適切に管理し、利用目的以外には使用しません。

## XII その他

- 1 入学願書等の所定様式は、言語文化研究科日本語・日本文化専攻ホームページ(入試情報)からダウンロードのうえ利用してください。提出書類は全てA4判用紙(白紙)で印刷してください。( [http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/jc/admission/a\\_ls\\_info.html](http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/jc/admission/a_ls_info.html) )  
ホームページからダウンロード及び印刷できる環境にない方は、郵送で請求してください。郵送で請求を行うときは、封筒の表に「博士前期課程日本学専攻応用日本学コース募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒(角形2号(240mm×332mm)封筒に210円分の切手を貼付し、本人の宛名を明記したもの)を同封の上請求してください。請求・照会先等は、巻末の《問い合わせ先》とします。
- 2 出願書類の記入事項及び書類等に不備がある場合は、受理しません。
- 3 出願書類受理後は、書類の差し替えや記入事項の変更は認めません。また、出願書類及び納付された検定料は返付しません。
- 4 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- 5 受験票は、令和4(2022)年1月7日(金)に出願者へ郵便で発送する予定です。なお、令和4(2022)年1月12日(水)を過ぎても受験票が到着しない場合は、巻末の《問い合わせ先》に問い合わせてください。
- 6 障がい等のある者で、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする者は、出願に先立ち、令和3(2021)年10月15日(金)までに、巻末の《問い合わせ先》に問い合わせてください。
- 7 出願後に住所変更等があった場合は、速やかに巻末の《問い合わせ先》に連絡してください。
- 8 出願にあたっては、自身が志望する研究内容等を踏まえ、後掲の参考資料「教員研究分野一覧」により担当教員、研究分野及び研究題目等を十分に確認しておいてください。
- 9 過去の入試問題は、箕面事務室学生支援係で閲覧することができます。(コピーは不可)当該年度に受験者がなかった専攻の試験問題は閲覧できません。詳しくはホームページ上の「過去の入試問題について」を確認してください。  
( [http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/jc/admission/a\\_ls\\_info.html](http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/jc/admission/a_ls_info.html) )

## XII 受験上の注意

- 1 試験場(大阪大学箕面キャンパス)については、大阪大学ホームページアクセスマップ( <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/> )や巻末の案内図等を参照してください。
- 2 試験室等については、試験当日、大阪大学箕面キャンパス外国学研究講義棟1階エントランスホールに掲示する予定です。
- 3 試験当日は、受験票及び筆記用具(黒鉛筆又は黒い芯のシャープペンシル、消しゴム)を必ず持参してください。なお、受験票を忘れた場合は、試験場本部に申し出てください。
- 4 時計については、計時機能だけのものに限り使用を認めます。
- 5 受験者は、試験開始時刻の20分前までに試験室に入室し、受験番号ごとに指定された受験席に着席してください。
- 6 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めます。
- 7 試験開始後は、原則として当該試験終了まで退室を認めません。なお、試験中の発病等やむを得ない事情により一時退室を希望する場合は、挙手して試験監督者に申し出てください。
- 8 試験に関して不正な行為があると認めた時は、その者の試験を無効とし、以後の受験を禁止します。
- 9 口述試験の開始10分前までには口述試験控室に待機しておいてください。
- 10 口述試験の最終終了予定時刻は18時ですが、事情によってはそれより若干遅くなる場合があります。
- 11 試験当日は、学内食堂等は営業しておりませんので、昼食は各自で用意してください。

## 【重要なお知らせ】

### 人文学研究科博士前期課程日本学専攻応用日本学コース実践トラック【一般】の試験科目「言語」の試験方法の変更について（予告）

令和5（2023）年度入試（令和4（2022）年夏季及び令和5（2023）年冬季に実施予定の入試）より、人文学研究科博士前期課程日本学専攻応用日本学コース実践トラック【一般】の試験科目「言語」において、次のとおり英語外部検定試験を導入する予定です。

対象となる試験区分	導入する外部検定試験の種類等（予定）
<b><u>【一般】区分志願者で、試験科目「言語」に「英語」を選択する者</u></b>	<p><u>IELTS(academic module)</u>、 <u>TOEFL-iBT Test</u>、 又は <u>TOEFL-ITP Tests</u> (いずれか1つのみを提出する。)</p> <p>※ 2020年度（2020年4月1日）以降に受験したもので出願時に有効期限内のものに限る。</p>
英語外部検定試験のスコアを換算式に基づいて得点換算する予定です。 (換算式は公表しません。)	

●日本学専攻応用日本学コース教員研究分野一覧(予定)

分野	職名	担当教員	研究分野	研究題目	
比較日本学	教授	加藤 均	仏教学	①近世・近代日本における仏教改革者の思想 ②インドと日本の仏教思想の比較研究	
		五之治 昌比呂	比較文学	日本における西洋古典受容の研究	
		岩井 茂樹	日本文化史、比較文化	①伝統文化研究 ②諸概念の受容および変容研究 ③表象文化研究	
	准教授	佐野 方郁	日本史学	①近現代日本の国際関係に関する研究 ②戦後日本の史学史に関する研究	
		柴田 芳成	日本古典文学	中世文学の研究	
		水野 亜紀子	日本近代文学	日本近代女性文学の研究	
		松村 薫子	日本文化学、民俗学	①民間信仰の研究 ②妖怪文化の研究	
		永原 順子	日本文化論	①伝統芸能、祭礼、怪異伝承の研究 ②自然科学の視点を用いた日本文化研究	
	応用日本語学	教授	岩井 康雄	日本語学、日本語音声学・音韻論	①語彙カテゴリーと音韻 ②日本語学習者音声の特徴
			岸田 泰浩	理論言語学・言語類型論	①統語論を中心とした理論的研究・類型論的研究(格やevidentiality等) ②コーカサスの諸言語(アルメニア語やグルジア語)との対照研究
中田 一志			現代日本語文法、文法教育	日本語のモダリティ、アスペクト、複文研究	
今井 忍			日本語学	日本語の形態法に関する認知言語学的研究	
荘司 育子			日本語学・統語論	①機能語の類の統語論的研究 ②統語的な観点からの文法体系の構築	
准教授		蔦 清行	日本文献学	①古代日本語の研究 ②中世日本における漢文化の影響の研究	
		山川 太	理論言語学	①日本語動詞における意味構造と統語的特徴との関連 ②漢語レベルにおける意味構造の分析	
		山泉 実	言語学(意味論、語用論)	名詞句の認知意味論・認知語用論	
		村田 真実	方言学、社会言語学	①日本語諸方言の研究 ②京阪式アクセントとその変種についての研究	
講師		儀利古 幹雄	音声学、音韻論、社会言語学	日本語音声の変化に関する社会言語学的研究	
		鴻野 知暁	日本語学	①奈良時代から平安時代を中心とした日本語の文法 ②コーパス言語学	
日本語教育学		教授	筒井 佐代	日本語教育学	①日本語の会話の構造分析 ②日本語の話しことば教育への会話分析の応用
	准教授	小森 万里	日本語教育学	①アカデミック・ライティング教育 ②日本語教育のための文法・談話研究	
		大和 祐子	日本語教育学	①日本語学習者の言語能力評価に関する研究 ②外国語としての日本語の習得とそれに影響する要因の検討	
		高井 美穂	日本語教育学	①日本語の会話分析 ②会話分析を生かした日本語会話教材の開発	
	講師	立川 真紀絵	日本語教育学	①異文化間コミュニケーション ②日本語のビジネスコミュニケーションに関する研究 ③アイデンティティ研究	
		櫻井 千穂	日本語教育学	①年少者日本語教育 ②バイリンガリズム	
	助教	秦 秀美	日韓対照言語学、外国語教育	日韓言語行動の対照研究、日本語母語話者に対する韓国語教授法	

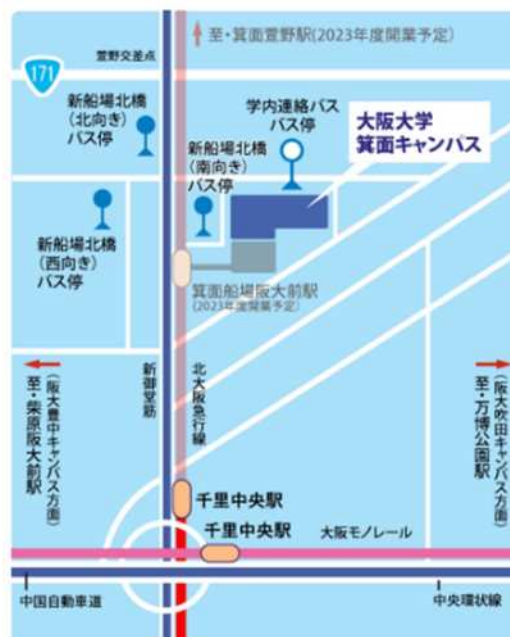
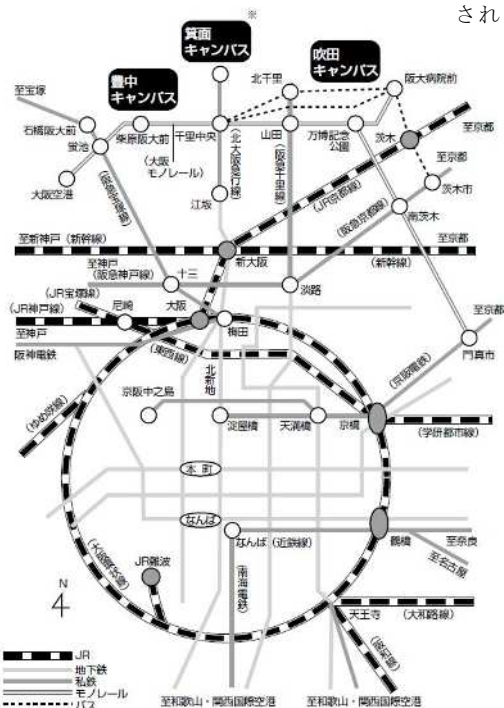
注1) 指導教員には、主指導教員と副指導教員の区別があります。入学後に主指導教員が決まります。

注2) この一覧表は、現・言語文化研究科日本語・日本文化専攻と日本語日本文化教育センターの専任教員に限定して作成しておりますが、今後変更となる場合があります。

## 案内図・問い合わせ先

### 《案内図》

※北大阪急行線延伸計画により、令和5（2023）年度に新設される予定の「箕面船場阪大前駅」と直結する予定です。



### モノレール・北大阪急行線：

千里中央駅下車 北へ徒歩 約 25 分

※新御堂筋沿いを北へ進んでください。(住宅街は通らないようにご注意ください。)

### バス：

○阪急バス

千里中央発

⑦停留所 [81][82][83]系統、[85]系統、[22]系統

⑪停留所 [19][20]系統

新船場北橋 下車 徒歩約 5 分

※急行便など新船場北橋に停車しない便もありますので、ご注意ください。

※系統によって、下車するバス停の位置が異なります（北向き）もしくは（西向き）。

千里中央方面へは（南向き）のバス停をご利用ください。

### 《問い合わせ先》

大阪大学言語文化研究科・外国語学部箕面事務室学生支援係

〒562-8678 大阪府箕面市船場東3丁目5番10号

TEL (072) 730-5069 (直通)

E-mail genbun-minoh-shien@office.osaka-u.ac.jp

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、選抜方法や日程等について変更になる可能性があります。変更が生じた場合は、ホームページまたは受験票交付時を通じてお知らせします。